



經典餘師

易經

口 11
2047
11



2047
11

讚岐百年先生述

經典

餘師

易經之部

卷七

京攝書林 六書堂合刻

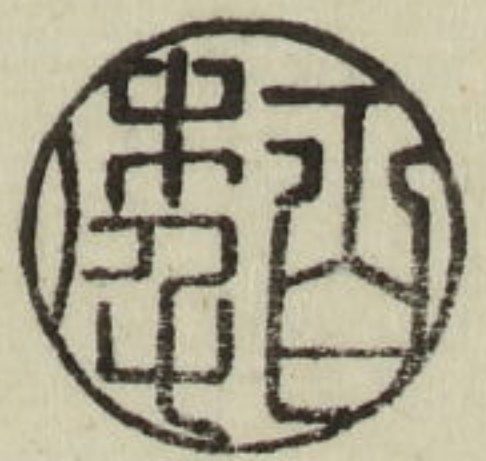
易之為書也。所以悟
變革之幾也。幾者戒
之於未形。慎之於未
萌。雖則戒且慎乎不
可如之何者。物之數
也。數生於易。故能知

數者素貧賤而不慍。素富貴而不濫。素患難而不惑。素威武而不讙。用之於一人則身修。用之於天下則政卒。是故萬志於易。

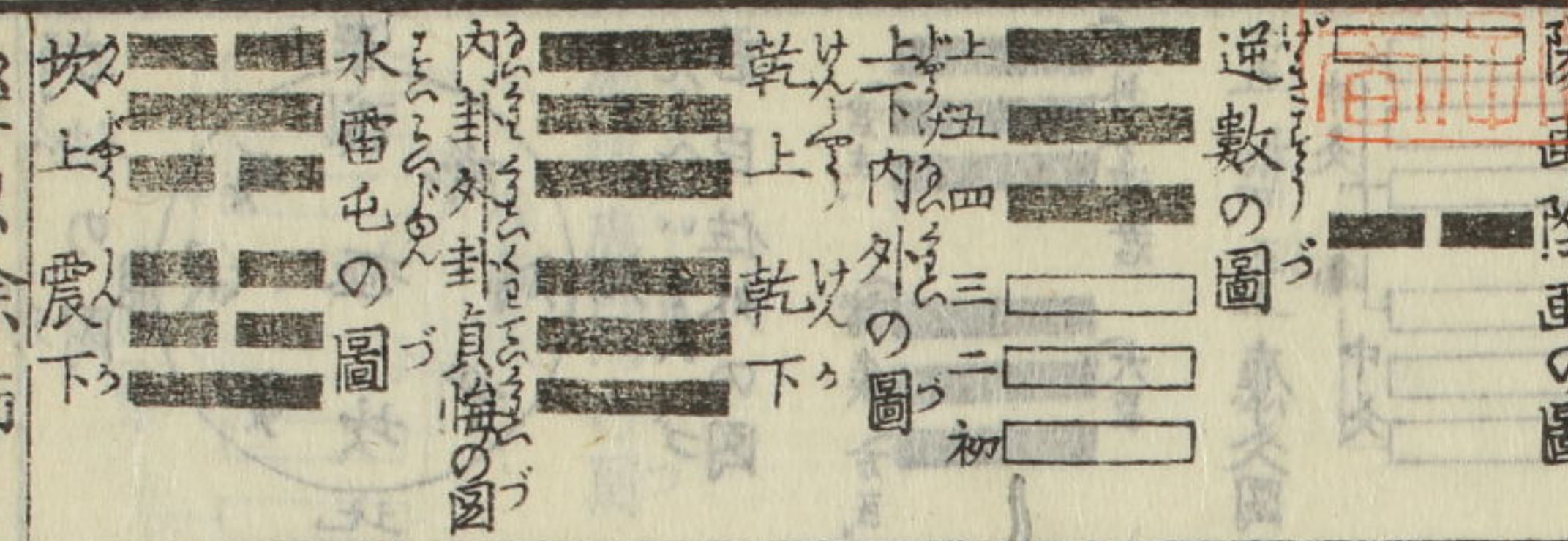
者戒其未形。慎其未萌。而後泰然安處。其數之不可如何。此之謂悟。變革之幾。蓋深於易者也。若夫仍卜筮。願欲以避之。絕就。

賑給者不足與語也
文化丁丑初冬

百年溪世題



周易餘師凡例

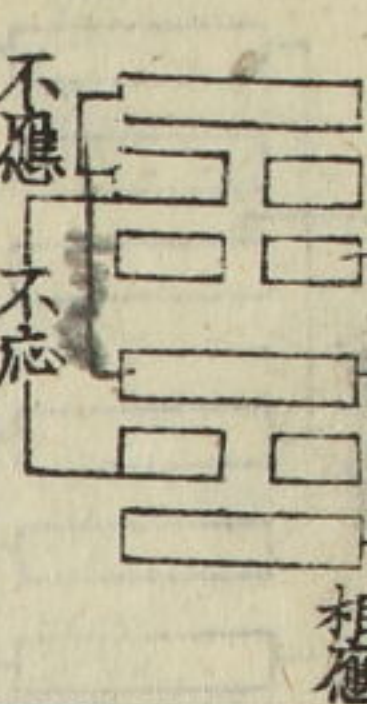


易の創興、唐土の御世の初、天子と伏羲の帝と
号して易の八卦と作ゆ、その八卦と重交とて六十四
卦とある此書ふのこゝる象形のこゝる、その六画と
下よりかぎて一二三四五六とて、但し一と初とて、二と次と
三と三とて、四と四とて、五と五とて、六と六とて、
陽爻とて、乾の卦のこゝる、初九、九二、九三、九四、九五、上九
とて、陰爻とて、坤の卦のこゝる、初六、六二、六三、
六四、六五、上六とて、六画とて、陽爻とて、乾下乾上
とて、陰爻とて、坤下坤上とて、一〇屯の
卦のこゝる、震と下とて、坎と上とて、屯の卦とて、
時、内卦、震、外卦、坎、坎、内卦、震、外卦、震、
外卦の名と悔とて、内卦、震、下卦、震、外卦、震、
坎、上卦、震、下
坎、上、震、下

經由餘師

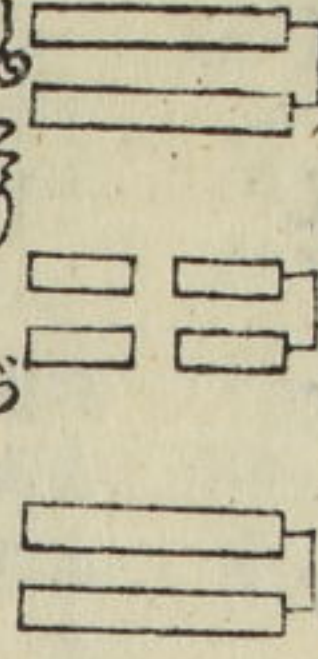
周易凡例

相應不應の因

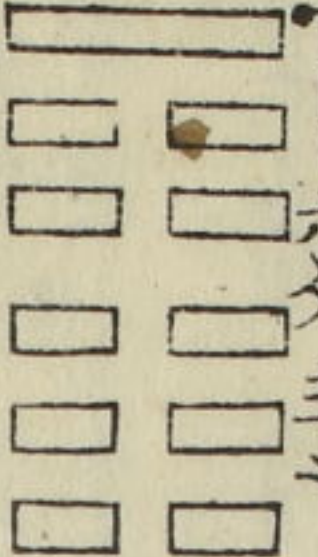


比並の因

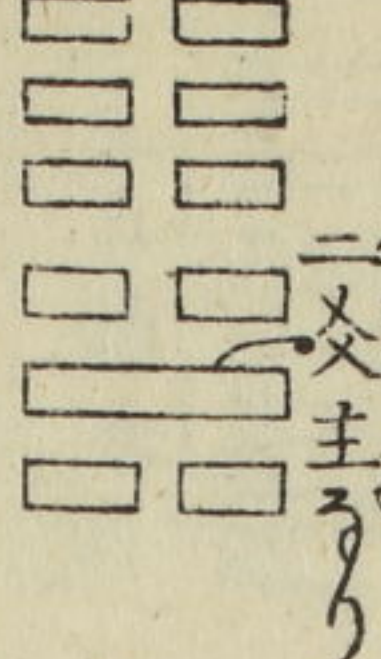
陽比 陰比 陽比



山地剝の主爻



地水師の卦ハ



助もたそくるとよむなり又應与ともいへば

○陽爻と陽爻と相對するところと不應と云はば

ふところなくせぬなり又陰爻と陰爻と對する

同断るり又敵應ともいふ敵と應對との心なり

○又初と二と陽爻と二と陰爻と二と陽爻と二と陰爻と

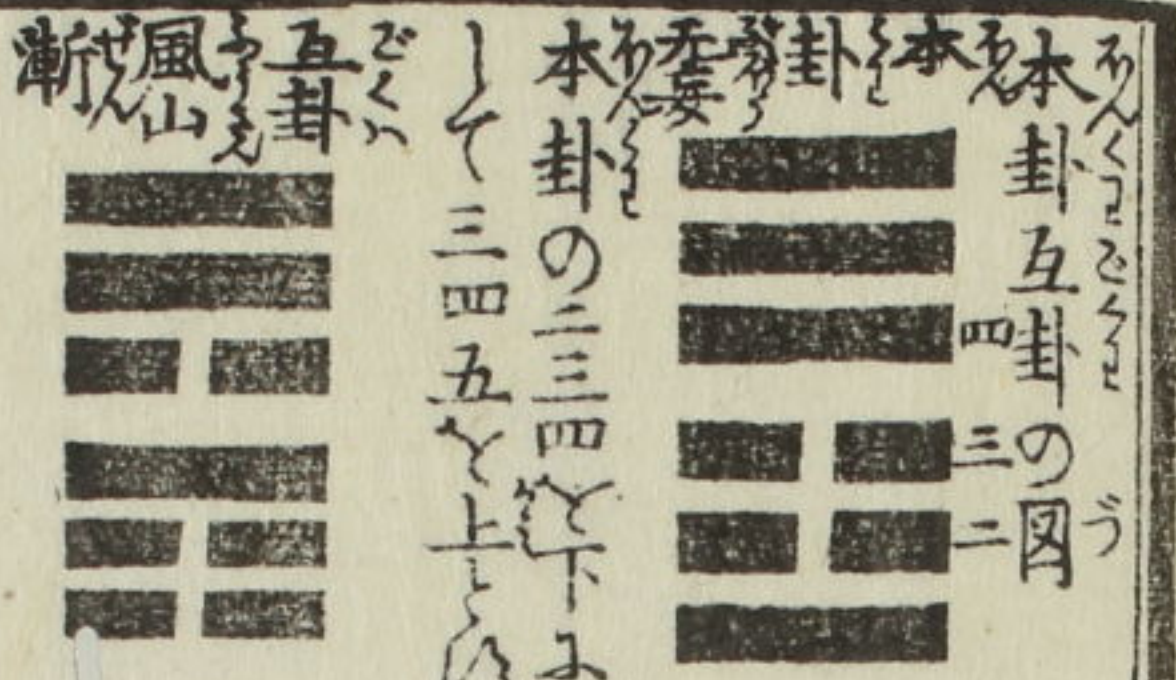
比と二と五とを應むるを以て吉なりと云はば

ハ五の君不遊して恐多し順柔の道と云はば

むなり二ハ五の君不遠くしてその身外不わりと云はば

○又一卦の内にて主爻と二と有・乾の卦にて

第五爻と主と坤の卦にて二爻と主と坤の卦にて



二爻なり・小畜ハ四爻なり・剝ハ上爻と以て戒慎と

るすの類おして知産

○易と翫用との縦横小材の

ハ通トグググ易ハ元より定格なり典要なるもの

○著數之法

著木の數ハ五十枚なり内一本と大極と名づけて

天地未分の象と表して中央ハ五と云はば

九本と兩手にて一挙ハ左右の陰陽の象と表

一扱左右の著と云はば一扱ハ四本と云はば

かどゆるるるるるかやふかどゆるること十有八變ハ

て一卦の形を生むるもの或ハ一爻と變ト云はば

二爻と變ト又三爻も四爻も五爻も變むるなり

○世は俗易の法より有・著とかがよる小本
 づりぐり、兩度小して一卦と生ト三度より一卦と變
 と生ト多々なりつても一卦と變りて無變とつて
 又擲錢の法より算盤即數の法より又とまに術と
 して見るものきく音にて卦とされる法あり又本
 著小畧撰として六變小卦と生ト流義あるなり
 ○卦象と見る多端あり裏面とて一有と一有
 否の卦とて裏面ハ泰なり否も上ハ極まる時
 ハ泰とて裏の心と見る一謙の卦の陰面ハ履なり
 心と謙とて一ハ恥義と履の多意と知あり
 ○來とて行とて有とて一ハ同人の離ハ内より
 行て大有の卦とて又謙の卦とて一時ハ地水師
 の二爻來て地山謙とて一ハ同人とて一ハ野
 子とて一ハ謙ハ功成て名ふふなり
 ○无妄の卦ハ自然と尚好の象意とて一ハ
 善人より一不善人此卦とて一ハ不善と一ハ不善
 となるの心あり

○文王の象の辭ハ一卦と説きより又卦の主と説き
 ○又爻變とて一有乾の二爻とて一ハ先離の
 意と見る又明有徳の象なり巽の象あり此ハ二
 三四より一ハ巽の裏面ハ地水師の象なり三爻
 一ハ離の裏面ハ兌あり巽の裏面ハ類なり
 ○又全卦六爻とて乾の初爻と見るも天風垢乃
 意と併見るなり二爻と見るも天火同人とて
 一ハ三爻とて一ハ天沢履とて一ハ四爻ハ風天小畜と見
 五爻ハ火天大有とて一ハ六爻とて一ハ天火同人と見
 爻變の例あり又裏面の坤とて一昭公廿九
 初ハ此の卦と論ト一ハ胡那文の易と説も同ト
 此意と以推ト一胡那文の易と説も同ト
 ○又八卦の象ハ乾ハ天也兌ハ沢也離ハ火なり震ハ
 雷なり巽ハ風なり坎ハ水也艮ハ山なり坤ハ地なり
 ○又陽爻の二画ハ附屬する物の明とて一ハ大なり
 夫と一君と一貴人と一富と一男

○陰爻の陰と暗と迷と柔と女妻と
 虚と賤と貪と愚と小人と女妻と
 此の字の推して知る
 ○又卦の字の心ハ掛の字の義ありて掛とよむ
 物と高所ふけりて明白ふ人ふ止めすと
 ○又陽爻の二開ハ剛とこま(て此と重て乾☰の形ヤ
 ちと純一ハ剛強と以て陽爻の徳とん。又陰爻の
 形ハ柔とこま(と重て坤☷の形とん。純一
 柔和ハ剛強と以て徳とん
 ○乾の九五ノ躍と一辭ハ一陽ふるい出の心とて雷
 地豫と以てふるり。又離の文明の徳ありて天下
 の民推して察とん。又水地比の意なり此
 類ハ推して察とん

周易餘師凡例終

周易餘師凡例終

周易卷之一

周易卷之一

易ハ陰陽の二と合て易ハ字と制

連山の 艮下艮上
 歸藏の 艮下艮上
 の 坤下 坤上

六十四卦と凡傳云大易ハ卦と作れり相重て
 艮の卦と重て初とん。又易の名と歸藏と
 して坤の卦と重て初とん。周ふりて今の
 易ハ坤の卦と重て初とん。易ハ字ハかゝると訓て
 易ハ坤の卦と重て初とん。易ハ字ハかゝると訓て

上經

上經

下二卷とん天地陰陽の始

乾坤二卦と上經の初とん。下經ハ人間
 男女夫婦の初とん。咸恒二卦
 乾坤二卦と上經の初とん。下經ハ人間
 男女夫婦の初とん。咸恒二卦

乾下 乾上



乾下 乾上

二の乾と重て初とん。上と下と天象運
 旋引て巴ざるの貞なり

乾元亨利貞
あり

○乾元亨利貞

辭の字ふおちりて一裁ふ就て吉凶利害の理義と決断
 一のふとの義之乾天あり初九天の四徳と述ゆ元と
 善なりと説て善の道なり和訓いふもいひる又おち
 いらるもよしなり善の字の心はどののこねつて
 まはめぬいふもいひる万物春に待て仁くそつて天子
 春あり仁なり万物春に待て仁くそつて天子
 の政変たつらうにそつて一物とそつてあつてとつて
 善之道とつてそつて元は善こと注す亨の字の心と
 障塞するこふりといひて達するなり貞と中正
 と守て心の変動するも義なり右乾の四徳は天下の
 主なる帝の御徳なり又一ヶ國ふ王なる諸侯伯
 大家ふぬいふもいひる大夫また一軒の亭主といふも人
 の長たるもの心得べきも同断なるべし又貞
 此字義こころ一なり一を執守とつて可といふも
 一返ふかるといふもいひるて應変宜きとつて
 ありこのふ貞なるも凶ありともいひる又貞なるも

初九潜龍用
あり

○初九潜龍勿用

乾の初九とてそつて初九の象ありと知べし乾乃
 あり陰面より坤の初九の象ありと知べし乾乃
 性ハ陽動するも龍の象とかりてそつて初九の象
 ○爻の辞ふは初九とてそつて初九の象ありと知べし乾乃
 卦象と推むるも初九の象ありと知べし乾乃
 ○乾の初九は賢者の時運するも初九の象ありと知べし乾乃
 するの義とてそつて初九の象ありと知べし乾乃
 する時身とてそつて初九の象ありと知べし乾乃
 身と用いて爻と執行んとするも初九の象ありと知べし乾乃
 するも初九の象ありと知べし乾乃
 ○も小人の制するも初九の象ありと知べし乾乃
 進て爻と成の意なり戒慎べし此の坤の初九の意
 進て爻と成の意なり戒慎べし此の坤の初九の意

○九二見龍在田利見大人

九二見龍在田

周易卷之二

三

大人に見ふ利有り

九三六君子終日

此の爻も右坤の二爻と同人の二爻と又二三乃
 離の義と合するなり。龍見現て平地田場
 出たり。初爻より替り身も今九
 二爻升て中央明白なる位なり。五爻の明君上り
 在りて此を奉用あり。この爻の賢者大徳の明
 君見ふ利あり。五爻の君大徳の賢人
 に見ふ利あり。二五利見たり。乃
 義か。のぶ。この人の文字明かして徳と成
 就。お智。下。賢者あり。離。以。陽
 爻。乾。下。中。大徳の人。二。君
 子。坤。二。直。方。大。の。意。二。君
 子。一。私。己。の。心。と。生。る。時。各。一。君
 公道。害。離。同。人。の。卦。二。文。明。の。賢
 徳。有。離。二。變。卦。裏。面。變。爻。の
 三。六。四。卦。二。の。意。二。此。以。下
 思。一。九。三。六。九。例。と。一。認。得
 て。が。ん。○九三君子終日乾々夕惕若
 九三六君子終日

乾々夕惕若
 又一説
 惕若夕惕
 九三六君子終日

九四或躍て淵
 一説
 淵ふ在る外
 九四或躍て淵

厲无咎
 九三六君子終日
 乾々夕惕若
 又一説
 惕若夕惕
 九三六君子終日

九四或躍て淵
 一説
 淵ふ在る外
 九四或躍て淵

或躍在淵无咎
 此爻雷地豫象と小畜と合かん
 又巽と離の意と
 九四

周易卷之一
 三

九五飛龍在天
在大人に見るに
利と

近きことしむと心も盈満なること天のとき
有やとれことと恐て身と退とまること○又今追
の場所と心も充つる由外へ出づる時心
疑念と生じて先なる時心あること
外なる所と心も○又龍ある躍つてこれ
又畜止とまる意なり○又畜して一るなり○躍
つて陽ふる出の心も雷地豫の意といふなり
○一説に龍ある躍る淵不在外なること又意
九群龍とわり変異魚の象ありとの説いふ
○或も定むる詞なり ○九五飛龍在天
まゝさうさうさうさうさうさうさうさう
利見大人 下と上と位とる由飛
人の助けられ天下國家も君も身も天徳の人
と見てたゞとれ此も政刑とさうなりたゞの
吉利なり○離の文明の徳なり○天下の民も
つて水地比の意なり○又火天大有の意なり

上九亢龍悔有

用九群龍首无
と見る吉なり

○上九亢龍有悔 亢は極なり六爻乃

はる心も進ふ過つて剛も過つて柔も過つてか
まる心も知る時必て心悔ふつてさうなり
○身とさうさうさうさうさうさうさうさう
意あり○はる人も浮気もさうさうさうさう
○日中と過る必すさうさうさうさうさうさう
はるなり ○用九見群龍无首吉 群龍
の六爻と龍の卦とさうさうさうさうさうさう
數と用得る乾の卦とさうさうさうさうさう
本今元亨利貞と乾の意と説なりと老陽
の九數と用得る乾の卦とさうさうさうさう
群龍无首とさうさうさうさうさうさうさう
て陽さうさうさうさうさうさうさうさう
が率和とる時衆の剛気強暴のさうさうさう
て

其血玄黃

血玄黃

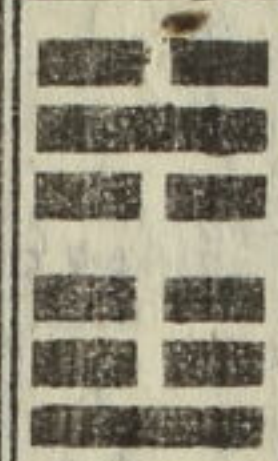
龍陽のさく入るる上六陰のさく入るる野と上爻外なるゆへに戦と陰陽ありと詞あり○陰さく入るるて陽もさく入るるに競争不和ありとさく入るるに臣の君と下の上と地と争ふるに争競の本なり○用六利

用六永貞不利

永貞

陰の本今陰の少と徳と長と大からと老陰と陰気さく入るるに陰ハ永貞に陽ハ変じんと同断なりとふくに陰ハ永貞貞節と守と徳とと吉利ありと婦女の徳あり○以上坤の用六の戒心なりこれ變じて陽と入るとするのいましめなり

震下坎上



震下 乾坤をどめてさく入るる陰陽乃完坎上 内みむとびーからと屯也

屯の字にたるの訓やその形中乃頭そのに地と下根のさく入るる下下の震ハ下より動出ると上の坎ハ地乃坎險と入ると出ると

屯元亨利貞勿用有攸往利建侯

屯元亨利貞勿用有攸往利建侯

卦の意の屯内も屯集て元びくる時ハつねに亨ぬけて貞まるなるをのこのことと利

初九盤桓利

居貞利建侯

初九屯の卦の主なり又震の陽爻は動て外にさく入り

六三屯如道如馬不乘班如寢如不匪替媾也んと女子貞字不十年乃字

まればも下ふ有て時と得ざるらん○盤桓とるまゝ
○貞とて正し守て心よくさくぬ之時節とまらざる
の位不居と利吉らん○尊貴とて以て卑みざるらん尊
貴の徳よに建て疾くらん○又柔の意のざらん侯と
建て下の賢と奉て治御とらん○六二屯
人ふ比とるの徳有とて水地比の意なり
如道如乘馬班如匪寇媾女子貞
又変互の光はよろろんでうごくの心なり道は難
所なりとてさくぬとてさくぬとてさくぬとてさくぬ
初九の陽の有り震て二爻の陰と犯ふ必なり
寇とらんふありを媾媾となんとらん六二
巴不應五爻の陽爻は貞節と守て心よく
らるるらん水澤節とて女子貞名をとりて媾媾

六三鹿不即て虞
无惟林中于入君
子幾舍不
吝

○六三即鹿无虞惟入于
林中君子幾不如舍往吝
進とて相屯聚て利とありとて柔あり上爻
有とのさくぬらん已柔とて承乗とて柔あり上爻
柔とて應むる輔なり虞山中の官ありて地の利
ふくつらん虞をけはるかともさくぬらん
林中入て道は秦帝天下とらん
時漢楚并陳涉吳廣の人々をさくぬらん
とて天下と鹿ふらん鹿と禄と通て天下大禄大利
ありまらん前ふ坎難有て震とて利あり
智有君子は其幾を見きりて舎とてまらん
この爻変下て剛才明離明らんとて決断とせん

童子より教を求むるは師の方より求むるあり
たに筮くもこの道理をさぐるも師とたつて
教を筮時を初て告ぐれば再三告ぐれば
く流とつてこのことく直とて正とて真正不利

初六蒙利用刑人用說桎梏以

初六蒙と發く用
て人刑用
桎梏と說と利と
以て往と吝と

往吝 蒙と發くと愚昧なるもの心むすべし
とと往と吝と

道理の... 往吝... 蒙と發くと愚昧なるもの心むすべし
とと往と吝と

九二包蒙吉納婦吉子克家

九二蒙と包吉と婦
と納吉と子家
と克と

九二包蒙吉納婦吉子克家
て裏面不離明と又二より上と山雷頤の象と民
民の愚昧なるを包容して中より養ふ

六三勿用取女見

六三女と取と用と
と勿と金夫と見
と躬と有不と利と
と攸と无と

六三勿用取女見
の象有女不婦納と吉なりと五爻以下不地師の象
有て衆人の心のさうとて以て子の家と嗣と克と

金夫不有躬无攸利

金夫不有躬无攸利
以て心まじい下二陽と下九の陽爻は應爻と
るゆ上の應爻とすつるは坎水の下一場と黄金と

六四困蒙吝

六四蒙と困と吝
吝と

六四困蒙吝
元この爻は柔暗みて蒙昧るあり賢明乃
場所不身を置とてとてたて無と有と

六五童蒙吉

六五童蒙吉

童蒙吉

六五童蒙吉
困究ととるの道と吝と鄙ととるりとど

上九蒙と擊する
寇を為す不利
不寇と禦ふ利

乾下坎上

需い子有て光亨
貞吉なり大川
と渉ふ利有り

初九郊于需なり
恒用ゆるふ利有
至咎无

九二沙于需小
言有終不吉

九三泥于需寇乃
至を致す

六四血于需穴自

經申餘帀

吉 蒙の卦にて君位陰柔なる由一幼少の君主に
二の陰ふ順從が由一賢人と敬一身とむるを
るの象とて君よりして礼あはるる
吉あるとあはるるや
○上九擊平蒙

不利為寇利禦寇 此の爻變じば師の卦に
地水師ふ因て辭より
けりそれ師、道ふとけ蒙昧ふして上ふさし引
と引ものど擊平なるばはささの師ハ中正と以て民
ととらふ太平とくくるべき本とて人ふ寇する
とくくるとり寇と禦ふをむるを吉利なり



乾下 坎上 乾はみみく之坎は水と一難所の
土地とて大なる川とて道とくく

需有孚光亨貞吉利涉大川 坎險難
乾剛進で陥入ど時て需て進行は剛明の徳ある
がゆえふ光一亨なるこの字ハ信の中ふ實なること

時てまら得て進ぐゆふ力を用い
貞正なるがごとく吉なりとあはるるは如此るを天下何事
濟さんやこの大川と
○初九需于郊利用
渉ふ利ありとく

恒无咎 固門と出で郊外にあり早く道ふ坎險
ることと知て需なり人欲心と止て望と絶
として身の恒常と守り咎无して利有り
○九

二需于沙小有言終吉 水ふ進まがゆふ沙
とて次弟ふ小險
坎をふつる時てまら得て進ぐゆふ力を用い
貞正なるがごとく吉なりとあはるるは如此るを天下何事

離明の徳なりとて遂
○九三需于泥致寇至
み吉利なりやまら

○六四
水ふ進く逼るが故ふ泥とてこの爻變じば
兌とて九三とくくると中なるは剛強と貞とて女ふ動
るが故難ふらうけしとて戒心可く見覺らる
るの意なりこの由一寇とて招致至むる

出づ

九五酒食于需
貞吉

上六穴于入り速
不客三人來有之
敬之終吉

需于血出自穴

四陰柔弱の身を以て下より進
むる三陽の剛不當る此險難
不傷付の象之この故血といふ穴
物之安止の処を
今身安堵するところを此の故
穴より出づ

九五需于酒食貞吉

九五陽剛中正
酒宴食を以て需
賢者の來至
賢者の來至
賢者の來至

有不速客三人來敬之終吉

上六需の終
居る之需
三人の客來
三人の客來
三人の客來

坎下乾上



坎下 乾上
乾の天の上を行て坎の水の下を行

訟有孚窒惕中吉終凶利見大人不

訟有孚有て窒る
終見不利あり
大川と渉る不利

利涉大川

利涉大川
利有る大川と渉る

永所事小有言終吉

初六不
利見大人不

初六不

吉

九二訟克不
歸而通其邑人三百无

六三舊德不食貞
吝

守王履とまる時ハ難ヤ
兇の口言りつとどり夏の永引ざる也終

○九二不克訟歸而通其邑人三百

百戸无青
二陽の力と以て乾の五陽ふ敵

又臣と以て君ふ克ぐバヤク
中の通くる時ハその身の

災散ヤまぬガ
卦るるハ以て夏否問て克とあ

○六三食舊徳
三陽のすま

貞厲終吉或從王事无成
陽と

素封と己の食とを
むと

心と

九四訟克不復
命

安貞吉

九五訟元吉

上九或錫終朝三褫

○九四不克訟復即命
争訟の心

渝安貞吉
此爻

九五訟元吉
この爻

上九或錫之般華帶終朝三褫之

意有

○上九或錫之般華帶終朝三褫之

一

二

三

坎下坤上

師貞丈人吉无咎

勝つるべしと云ふは一且の勝と賞美し上より擊帶のまゝの有り終朝の又統奪間たり終朝と六時より五時よりこの間たり擊帶と爵命とたまはる時の帯なり

この卦と師の象は二交陽ありて大將軍の象なり陰文と衆兵の象なりと云ふは二形より六五の君より九二の大將よりと云ふは外卦の坤順之法令と正して名目ふかる理は順違と坎水と内卦の艮險艱と云ふは設たてしるる水の地ふるる水の地ふるる兵勢の形と変じらば以て軍敵ふよりて

師貞丈人吉无咎

師と云ふは衆と云ふは衆の義も同意同呼なり貞と云ふは純一と守りて心と

初六師出以律否臧凶

九二師中不在吉无咎

初六師出以律否臧凶

初六師出以律否臧凶 師の出初と云ふは國家の存亡に關する事なり智勇の大夫夫と云ふは吉と云ふは答なり

九二師中不在吉无咎

九二師の中不在吉无咎 師の中不在と云ふは國家の存亡に關する事なり智勇の大夫夫と云ふは吉と云ふは答なり

六三師或輿尸凶

將軍とあつてあけて大将命をうけて天子とても
かろぐ一命をて將を拜壇とていふは三命
の式有り鉄錫の祀あり又君の命令の辭令
も相外のハ唯將軍の心のまへに相内の夏と

師或輿尸凶 此の爻變は陰の柔暗を陽位にあ
てて又坎の艱難の地あり

○六四師次之无咎 柔暗を師と將とあつて
互の震と輿と變は離明と此の二象より時明の
敵の難とつて震とて位次と无退の敗と

六四師次之无咎

六五田无禽有言

○六四師次无咎 柔暗を師と將とあつて
互の震と輿と變は離明と此の二象より時明の
敵の難とつて震とて位次と无退の敗と

○六五田有禽利執言

无咎。長子帥師。弟子輿尸。貞凶。

无長子帥師 弟子輿尸 貞凶

田地と田と荒とて禽獸と敵賊と又一説は
言と執とて大将の任と命と大吏と委とす乃
後この言とて執て傍人の言とてまよつて將と
寛容とて將を將とて大君とて長子と大將
不仕とるの才有り師と帥とあるの器量有る弟子

應變と妙とて 執守とて貞凶
○上六

大君有命。閑國承家。小人勿用。

上六大君命有國 閑國承家と承く 小人用勿用

巳不賊 師の上爻あるは師の終り良しん
大君詔令

坤下 坎上



坤下 君位五爻の二陽を衆陰に比して

らうて恩賞し或ハ國を割るに比して諸侯を封じ
ト多し或ハ士大夫とるりて家禄とあり承りあり
但し軍功たりとも小人を爵に上らば用
ぐらんと下とるる人の病あり別小道に比して
富しとるる貴とるる比

救余民の比順とるるハ裏面火天
大有の明君の徳ありとるる

比吉原筮元永自无咎不寧方來後

夫凶 大徳うて衆を帰服し親比の卦なるか
吉なりとて私己の志を以てみたりとるる

比吉原筮元永自无咎不寧方來後
夫凶

明君人情世道の道理ふれ原づれ誠と以て
賢人小筮問とる大有の元とる徳と不どあり永
貞みとて親比の道ふ於て一度の咎けりハ身寧
せざるものハ四方より來て親比つてくるとる

初六有孚比之无咎

有孚盈缶終來有他吉 初六位外乃下
の為人ハ人の親比の道ふるハまねて孚ありとる

六三比之自内自吉 中正以正應也
又中正以正應也

六三之匪人 六三の變裏面ハ火澤睽
とる水山蹇の意たりて陰柔不中

初六有孚有之
比之咎无孚有之
各小盈終來
て他の吉有

六三之匪人 六三の變裏面ハ火澤睽
とる水山蹇の意たりて陰柔不中

二爻も應じたる所の道に承る所の四爻も乘る所乃
二爻も應じたる所の道に承る所の四爻も乘る所乃

六四外之比と
貞吉

九五比と頭
用て三驅
會と失う邑人
識不吉なり

上六之比と首
无凶なり

○六四外之比と貞吉
四の陰柔の位に
一とて剛陽正

○九五頭比王用三驅失前禽邑人不
中の君と承を内にて親比とる理の常外にて親比の類
一とて剛陽正と守の吉なりこの爻の變は萃なり

○九五頭比王用三驅失前禽邑人不
先王物を生て絶どる又田獵とあり

○九五頭比王用三驅失前禽邑人不
先王武と講むる為よ田獵とあり

○九五頭比王用三驅失前禽邑人不
先王物を生て絶どる又田獵とあり

○九五頭比王用三驅失前禽邑人不
先王武と講むる為よ田獵とあり

○上六比之无首凶
比親乃
道なきと

○上六比之无首凶
比親乃
道なきと

○上六比之无首凶
比親乃
道なきと

○上六比之无首凶
比親乃
道なきと

○上六比之无首凶
比親乃
道なきと

○上六比之无首凶
比親乃
道なきと

○上六比之无首凶
比親乃
道なきと

○上六比之无首凶
比親乃
道なきと

○上六比之无首凶
比親乃
道なきと

○上六比之无首凶
比親乃
道なきと

乾下巽上

小畜亨密雲雨
不我西郊自
す

初九復と道自

經由餘師

周易卷之二

十一

小畜亨密雲不雨自我西郊
雨雲つまり
密て雨はまら

小畜亨密雲不雨自我西郊
雨雲つまり
密て雨はまら

小畜亨密雲不雨自我西郊
雨雲つまり
密て雨はまら

○初九復自道何其咎吉
卦下

虎尾不咥人

初九素履往无咎

九二道与履坦々

禮儀人の履しめておこす

履虎尾不咥人亨 乾元より高の上下

素履往无咎 素履見在ふかぎりしる心

坦々幽人負吉 身常小道履下義理

六三眇能視跛能履

九四履虎尾愬終吉

九五夬履貞厲

六三眇能視跛能履 眇能視跛能履

尾咥人凶武人為于大君 武人為于大君

九四履虎尾愬終吉 愬終吉

九五夬履貞厲 夬履貞厲

貞ふれい屬

上九履て視て祥
考ふ其旋
元して吉なり

乾下坤上

泰小往て大來
る吉なり

初九第て拔て茹
り其氣を以て
征ふ吉なり

九二荒て包て馮

經典餘師

周易卷之二

二十

たふ由也。已も又事て履行てたの... 徳らる人... 象者善者の... 明君... 小違背... 貞ふれい屬

視履考祥其旋元吉

上九も又道て履行... 禍福の祥兆... 身の周旋... 又君も周旋... みる時ハ吉利



乾下坤上 乾天... 坤地... 陰兌外て上ふま... 天下泰平

泰の卦と
名付なり

泰小往大來吉亨

卦象小陰... 陽兌下... 消尽... 子... 泰平

彙征吉

彙の根... 初九拔第茹以其

相... 征の字... 異順... 九二

包荒用馮河不遐遺明亡得尚于中

周易卷之二

二十

河之用也。遺遺。不明。中行。于尚。得。

九三平。無。往。不。復。艱。貞。無。咎。勿。食。其。言。于。食。有。福。

行 泰平の世、土地はくろく、荒裔までも仁徳はまはる。色まらして、めい、世の中、かやう、時、安

堵、義、過、又、風俗、及、この時、平、勇、義、過、又、風俗、及、この時、平、勇、義、過、又、風俗、及、この時、平、

世、治、古語、馮、河、馮、涉、虎、暴、捕、此、勇、剛、用、中、ふ、た、二、交、は、變、離、

離、の、朋、德、退、小、地、道、朋、朋、黨、徒、黨、と、組、一、所、ふ、る、君、子、

中正、の、躬、行、と、尚、居、泰、平、の、心、亡、私、意、九、中、正、の、躬、行、と、尚、居、泰、平、の、心、亡、私、意、九、

三、无、平、不、陂、无、往、不、復、艱、貞、无、咎、勿、三、无、平、不、陂、无、往、不、復、艱、貞、无、咎、勿、

恤、其、言、于、食、有、福、九、三、陽、交、次、柔、小、中、恤、其、言、于、食、有、福、九、三、陽、交、次、柔、小、

苦、心、か、を、貞、心、と、互、ぬ、時、咎、も、う、恤、も、あ、く、字、小、食、と、得、て、又、福、分、も、

身、得、ま、る、り、○六四、翩、々、不、富、以、其、身、得、ま、る、り、○六四、翩、々、不、富、以、其、

鄰、不、戒、以、孚、泰、の、六、四、柔、德、以、陰、位、得、り、鄰、不、戒、以、孚、泰、の、六、四、柔、德、以、陰、位、得、り、

富、況、泰、卦、う、て、坤、の、陰、交、和、合、し、て、和、辟、富、況、泰、卦、う、て、坤、の、陰、交、和、合、し、て、和、辟、

今、この、三、陰、の、鄰、と、以、心、を、お、さ、し、て、翩、々、往、來、今、この、三、陰、の、鄰、と、以、心、を、お、さ、し、て、翩、々、往、來、

心、戒、不、し、て、志、を、お、さ、し、る、○六五、帝、乙、歸、妹、心、戒、不、し、て、志、を、お、さ、し、る、○六五、帝、乙、歸、妹、

君、の、意、を、う、け、順、づ、み、す、○六五、帝、乙、歸、妹、君、の、意、を、う、け、順、づ、み、す、○六五、帝、乙、歸、妹、

以、祉、元、吉、六五、の、君、柔、德、文、明、る、り、下、の、以、祉、元、吉、六五、の、君、柔、德、文、明、る、り、下、の、

帝、の、名、を、り、天、子、の、貴、妹、の、身、を、以、て、諸、侯、嫁、り、帝、の、名、を、り、天、子、の、貴、妹、の、身、を、以、て、諸、侯、嫁、り、

身、の、貴、人、と、し、て、夫、下、に、お、さ、し、る、互、震、身、の、貴、人、と、し、て、夫、下、に、お、さ、し、る、互、震、

雷、二、五、相、感、動、時、雲、雨、の、象、○上六、城、雷、二、五、相、感、動、時、雲、雨、の、象、○上六、城、

經典餘師

周易卷之二

七

上六城隍于復る

六五帝乙妹帰

六四翩々富不以其鄰不戒以孚

師用命勿吝
邑自命告負
吝

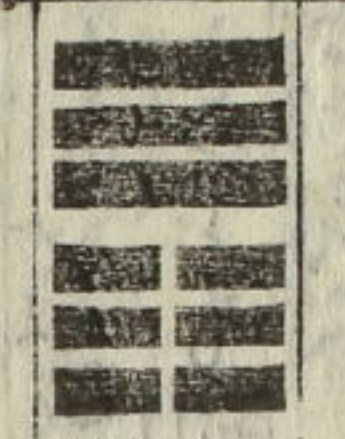
坤下乾上

否之人不匪也
君子之自不利
不大利小來
初六第と拔て茹

其彙以
貞吉
六二包承小人
吉大人否
して亨

復于隍勿用師自邑告命自吝
の變

と良し泰極窮し
坤土の平地とる
の威も振
とんと墮へ城のりるあり



坤下 乾陽上
坤陰下
和合せば

否之匪人不利君子自天徃小來
陰陽

和合あして人の道
匪とて此時君子
貞て應變の
徃とて小人とみ來の

第茹以其彙自吉亨
否の時節
守は

六二包承小人吉
○六二包承小人吉

大人否亨
世の否塞
くして儉好の

身の時
小人の徒輩
大人の操作
變てあして
てふ・剛と
の徳やかく

六三羞也包

九四命有咎无
疇社也子離

九五否也休
其亡亡其
于繫

上九否也傾
先否也
後喜也

離下乾上

同人野于利
涉大川利
君子之貞利

經典餘帛

六三羞也包 ○六三包

六三不中不道小人利也むさばり羞辱と忍

九四命有咎无 命有咎无 命有咎无

有命无咎 疇離社 九四否也

九五休否 大人吉 其亡亡其

于繫 塞の事とて休めよ小人不明の任

苞桑 九五の交離の象と見る 明德の君出

上九傾否 先否後 今喜也

離下 離火の性炎上て天と同ト

同人野 野の人心同ト 野の人心同ト

利涉大川 利涉大川 利涉大川

君子之貞 君子之貞 君子之貞

利 利 利

離下 離火の性炎上て天と同ト

同人野 野の人心同ト 野の人心同ト

利涉大川 利涉大川 利涉大川

君子之貞 君子之貞 君子之貞

利 利 利

離下 離火の性炎上て天と同ト

同人野 野の人心同ト 野の人心同ト

利涉大川 利涉大川 利涉大川

君子之貞 君子之貞 君子之貞

利 利 利

初九同人門小予
と答无

六二同人宗小予
と答无

九三戎于高陵外
三歲興不

九四其墉小乘者
攻之克弗吉

義た小人の徒黨とつゝ私己の利欲心とてちるむ
とゆゑ家内の有るも有らざるもなきるもなきるも
今野の時家とて泥く外なる也 公義の道
てつゝ右私己の野小予とる度へ事なるも
あり天下の人と心と同一して正中とて大川と涉ると艱
難苦勞なるもたゞ貞とて度とて正貞とて
離明の二交賢臣内小ありて乾の健とる五爻の君子相
應とて且正貞と執とて
支細とて義とて
○初九同人于門

无咎 三四五の邪正も心と相与んとして門内小予
係應とる心とて又偏私小同とる思ふ
初九の咎は二説小門とて家外のこととて
○六二同

人于宗吝 内外の衆の乾男とて一陰と求を
今六二の陰も離明とて變とて乾男の
も偶と求ると正應の宗小予と各鄙なり
○一説小

九三伏戎于高陵外 三歲興不
五爻の陽とて宗と見て二爻ハくして五小私意とる
と見ると吝なりとて不可なり五爻と衆宗とも
○九三伏戎于高陵外 三歲興不

不興 九三不中二と比とて正應の五君と止人
戎兵と萃中伏戎とて又高陵外
てうぐい望つたふ敵とて三歳とて
とて兵戎と萃興とて兵戎と離とて
とて震とて高陵とて互卦の良とて

九四乘 其墉弗克攻吉
此爻陽とて剛の位小居
○九四乘

其墉弗克攻吉 四も又己の今限とて見らる
おつる正應の五とて止んと墉小乗とて見らる
とて異順とて攻戦との道とて
して強莫るるとは止とて吉とる

九五同人先不號
咷而後笑大師克
相遇

上九同人郊不于
悔无

乾下離上

大有元亨

初九害交
匪艱則无咎

九二大車以載
往有咎无

經典餘帀

九五 變互離明の松りて以て心やむかたり
て吉利とるる戒兵の離りて
○九五

同人先號咷而後笑大師克相遇
と正應るる小三四の陽これとてとんと我兵と伏又ハ墮
小乗て攻てくも仍ていりて發して大師と以て克とるる
けて相遇と云得るりこれ先ハ號咷とて後
笑とるる五爻ハ變離の象あり離と明目と九五
見りて二爻の離と互ハ相見と笑とるる○上

九同人于郊无悔
上九ハ位外なるゆ(郊の外と云
二の同人ハ大なるゆ(この也ハ

三四のどく争競とて同
得るり元より悔とるる

乾下離上
離上ハ日又火之照るる乾ハ天ニま君
光南ハ中とるる由(下とるる

大有元亨 明君上小位一も一也明くは天下とて
治めふとるるの陽爻を賢

初九无交害匪咎
又同人の卦内の離のり
○初九无交害匪咎
君子に國家の富つる時ハ大盜これハ代人の謀計ありハ
是大小の妬と引出とのハ富るる今初九ハ位外よりりて能
く身居正しくして身の分限守り外と接るるハ
驕盈て人ハほころとるる又凶害も身ハ交接のちや
九二咎ハ匪の身なり泥や常ハ不足也
常ハ眞如とるるハ又心ゆめハ世の交接ハ艱苦き
○九二大車以

載有攸往无咎
大ハ國家と有るの時君より九二乃
賢者ハ重く委まるとるる賢者

九二大車以載
往有攸往无咎

載有攸往无咎

周易卷之二

七五

と行ふ利と

初六鳴豫凶なり

時豫豫ふむがれて心せざるの國小侯とる人と建かいて武道とみかた軍法となく師と行い威とまめとこときと全くと大平いと終と

初六鳴豫凶九四卦の主なり

六二石于火日終不貞吉

初六ふ應どに小人一時の心せざる權の家ふ出とる也凶なり

六二介于石不終日貞吉六二六陰爻

六三盱豫悔遲有悔

陰位とる也中正より陰柔とるもその剛と石より介あり二三四の離明とるゆえ不正とるば終日とること

六三盱豫悔遲有悔六三陽

九四由豫大有得勿疑明

位とるふ陰柔の身してその居位とるたぐ至卦ふ近づく隣とる也ふとるふ盱比とるもとるふ吉とる凶とるま

九四由豫大有得勿疑明九四

六五貞疾恒不死

位とるふ心とる豫示とる悔とる見るとる偏ふよる時ハ又悔とる生とる心とる心とる心とる

六五貞疾恒不死六五生質柔弱

上六冥豫成有渝无咎

位とるふ心とる豫示とる悔とる見るとる偏ふよる時ハ又悔とる生とる心とる心とる心とる

上六冥豫成有渝无咎上六の好陰

震下兌上

震下兌上震兌

震下兌上震兌

小得と有疑

位とるふ心とる豫示とる悔とる見るとる偏ふよる時ハ又悔とる生とる心とる心とる心とる

小得と有疑九四

勿とバ明盍簪

位とるふ心とる豫示とる悔とる見るとる偏ふよる時ハ又悔とる生とる心とる心とる心とる

勿とバ明盍簪九四

六五貞疾恒不死

位とるふ心とる豫示とる悔とる見るとる偏ふよる時ハ又悔とる生とる心とる心とる心とる

六五貞疾恒不死六五

上六冥豫成有渝无咎

位とるふ心とる豫示とる悔とる見るとる偏ふよる時ハ又悔とる生とる心とる心とる心とる

上六冥豫成有渝无咎上六

震下兌上

震下兌上震兌

震下兌上震兌

小得と有疑

位とるふ心とる豫示とる悔とる見るとる偏ふよる時ハ又悔とる生とる心とる心とる心とる

小得と有疑九四

勿とバ明盍簪

位とるふ心とる豫示とる悔とる見るとる偏ふよる時ハ又悔とる生とる心とる心とる心とる

勿とバ明盍簪九四

六五貞疾恒不死

位とるふ心とる豫示とる悔とる見るとる偏ふよる時ハ又悔とる生とる心とる心とる心とる

六五貞疾恒不死六五

上六冥豫成有渝无咎

位とるふ心とる豫示とる悔とる見るとる偏ふよる時ハ又悔とる生とる心とる心とる心とる

上六冥豫成有渝无咎上六

震下兌上

震下兌上震兌

震下兌上震兌

よろこびて長男も隨從の
卦もろくも隨とす

隨元亨利貞无咎

人も隨從するのたまはるるの
道は貞一不正一なるがた

何れもたゞしき時ハ

初九官有

渝貞吉出門交有功

初九ハ震動の主官なる
也そのたまはるるの

心で以ていへるる今までのばしき時ハ不吉なり
が所貞正とていふ言ふり門とて身のまどろころか
るる吉の功なりとぞ

六二係小子失丈夫

二爻變じれば兌の卦ニ
ニの應ハ九五とて遠し

六三係小子

六三爻變じれば離の文明とある
之を文明とるがた不隨從所

六三丈夫不係小子

六三爻變じれば震の動とある
之を動とるがた不隨從所

有求得利居貞

六三爻變じれば離の文明とある
之を文明とるがた不隨從所

九四隨有獲貞凶有孚在

九四爻變じれば震の動とある
之を動とるがた不隨從所

道以明何咎

九四爻變じれば震の動とある
之を動とるがた不隨從所

九五嘉于字

九五爻變じれば震の動とある
之を動とるがた不隨從所

吉

君位中正ありて賢明の徳日漸くして下卦の中正
も應じらるるがた五の中賢ハ

隨ハ元亨事る貞
不利して咎无

初九官渝と有て
貞吉之門と出

交有功有

六二小子不係
丈夫と失か

六三丈夫不係
小子

子と失くし隨
て求得と有貞
不吉不利と

九四隨有獲
有貞と有て道
凶之字有て道
在て以て明
可の咎有

九五嘉于字
吉なり

九二母之盡不幹
九三父之盡不幹

六四父之盡不裕
六五父之盡不幹

九三父之盡不幹
六四父之盡不裕
六五父之盡不幹

六五父之盡不幹
六四父之盡不裕

上九王侯小事
不其事也高尚

兌下坤上

經由餘而

父の業とたけつゝの義あり考らざる生とて父と
九二を考とて有子とての家とたけつゝ子とての徳有り
この故に考答とて心危殆と戒慎とて終ふ吉ありとて
以て心危殆と戒慎とて終ふ吉ありとて

○九二幹母之盡不可負

九二母之盡不可負
九二母之盡不可負
九二母之盡不可負

○九三幹父之盡小有悔

九三父之盡不幹
九三父之盡不幹
九三父之盡不幹

四。裕父之盡往見吝

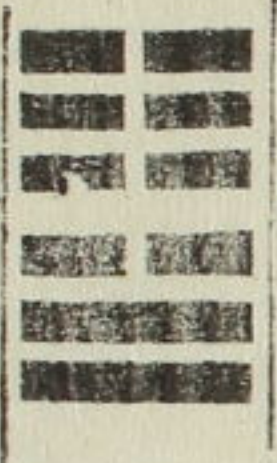
六五父之盡不幹
六四父之盡不裕
六五父之盡不幹

虫用譽

虫用譽
虫用譽
虫用譽

○上九不事王侯高尚其事

上九不事王侯高尚其事
上九不事王侯高尚其事
上九不事王侯高尚其事



兌下 坤上 復の卦とて二陽の長じ

臨の卦とて懸るり臨大の字の義ありて陽長大
とて陰きゆるの象あり

坤上

臨元亨利貞至于八月有凶
臨元亨利貞 陽氣の長じると上の御徳さると利と八月于至て凶有

臨元亨利貞至于八月有凶

陽氣の長じると上の御徳さると利と八月于至て凶有

臨元亨利貞 陽氣の長じると上の御徳さると利と八月于至て凶有

臨元亨利貞 陽氣の長じると上の御徳さると利と八月于至て凶有

臨元亨利貞 陽氣の長じると上の御徳さると利と八月于至て凶有

臨元亨利貞 陽氣の長じると上の御徳さると利と八月于至て凶有

臨元亨利貞 陽氣の長じると上の御徳さると利と八月于至て凶有

臨元亨利貞 陽氣の長じると上の御徳さると利と八月于至て凶有

臨元亨利貞 陽氣の長じると上の御徳さると利と八月于至て凶有

臨元亨利貞 陽氣の長じると上の御徳さると利と八月于至て凶有

臨元亨利貞 陽氣の長じると上の御徳さると利と八月于至て凶有

臨元亨利貞 陽氣の長じると上の御徳さると利と八月于至て凶有

臨元亨利貞 陽氣の長じると上の御徳さると利と八月于至て凶有

臨元亨利貞 陽氣の長じると上の御徳さると利と八月于至て凶有

六三甘臨利无攸无咎
六三甘臨利无攸无咎

九二咸臨吉无不利

九二咸臨吉无不利 二と五君と相成りて相應と君より何憂も信向 委ね任かへその威光を以て下を臨む

六四至臨无咎

六四至臨无咎 六四至臨无咎

六五知臨大君之宜吉

六五知臨大君之宜吉 六五知臨大君之宜吉

上六敦臨吉无咎

上六敦臨吉无咎 上六敦臨吉无咎

初九咸臨貞吉

初九咸臨貞吉 初九咸臨貞吉

六三甘臨利无攸无咎

六三甘臨利无攸无咎 六三甘臨利无攸无咎

六四至臨无咎

六四至臨无咎 六四至臨无咎

坤下巽上

觀盥而不薦有孚顒若

初六童觀小人咎无君子吝

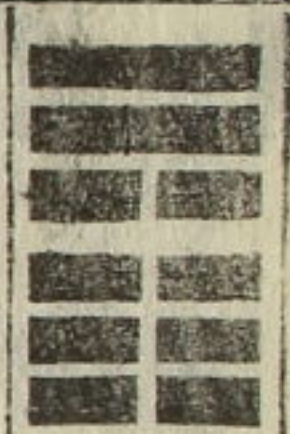
六二闚觀利女貞

の貞不利す

六三我生と觀て進退と

六四國の光と觀りて王于賓する

九五我生と觀る君子吝咎无



坤下 觀の字ありて又うがひる。つぎ巽上

觀盥而不薦有孚顒若

神明と祭の時手

初六童觀小人咎无君子吝

君子吝

初六陰柔にして九下ふつ六四も陰柔

六二闚觀利女貞

坤の中正

生進退

身の生立と久く觀る

六四觀國之光利用賓于王

國の光と

觀我生君子无咎

心と以て身の生立

九五我生と觀る君子吝咎无

上九其生と觀る
君子るれば咎无

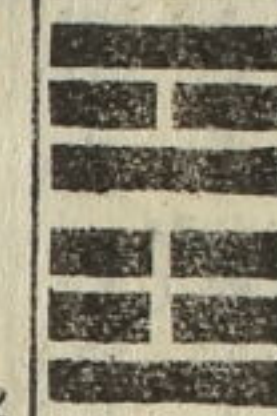
震下離上

噬嗑亨利用獄
用ゆる不利とい

初九校と履で趾

見○上九觀其生君子无咎
この爻は又
刑徳の賢才

みして位外よりその人の生立と觀る
操行と變じば咎ありと變じば咎なしと
此の卦の上六の災凶と合せ



震下 離上
震下艮上 頤の卦なり 頤はねとくし
頤の形ハ三三中ひけて上と下と小隔

噬嗑亨利用獄
獄ハ口也 訖訟刑懲の支たり
誅戮の義あり 凡て并舌

初九履校減趾无咎
初九の爻は 震の初爻なり 履は歩行
校は木校なり 趾は足なり 減は減るなり
初九の爻は 震の初爻なり 履は歩行
校は木校なり 趾は足なり 減は減るなり

と減し咎无

六二層と噬で鼻
と減るれば咎无

六三腊肉と噬
毒ふ遇り小咎
咎无

六二噬層減鼻无咎
二爻は三四五
でハ獄と判断

六三噬腊肉遇毒
腊肉は乾肉日數るなり 肉厚く
遇毒は毒に遇り 小咎

小咎无咎
腊肉は乾肉日數るなり 肉厚く
遇毒は毒に遇り 小咎

九四乾肺と噬と
金矢と得と
艱貞と利と
吉と

六五乾肉と噬と
黄金と得と
貞と厲と
咎と无と

上九校と何と
耳と滅と
凶と

離下 艮上

貴亨小
利有攸往

初九其趾と
舍車而徒

經曲 塗師

と握三の臣下なり今この三下の上よりと...
○九四噬乾肺得金矢利
六五の君は天下を治るの大任
重なり以て人々屈服せざる...
乾肉は心なる色なり
四の乾肺よりいかるる心なり
○六五噬乾肉
六五の君は天下を治るの大任
重なり以て人々屈服せざる...
乾肉は心なる色なり
四の乾肺よりいかるる心なり

○上九何校滅耳凶
上九の君は天下を治るの大任
重なり以て人々屈服せざる...
乾肉は心なる色なり
四の乾肺よりいかるる心なり

離下 艮上
木がやれ文貴が由(貴と名づけたり)
益盡の卦法なりこの卦と倒反する...
貴亨小利有攸往
礼あるを主たり

○初九貴其趾舍車而徒
君子剛徳なり
下位より上りて
初九其趾と
舍車而徒

車と舎て而して徒と入

六三其須と責る

九二責如濡如永貞吉

六四責如婦如白馬翰如

婚媾見

六五丘園于責束帛

上九白責咎无

經曲餘師

その身の分限と守るが由(車馬)と舎て用ると
く僕徒をくひりたりく小人(耻)とく君子(本)
よりかざる心るれりかざるをくくくくくくく
時ふらびりて下ふらぶ也(耻)と下ふらびりて(礼)と守る

六三責其須

須(礼)と用ると
とるれど各々(物)の定式ありて(實)の外(責)と
くくく宜きとくくくくくくくくくくくく
然るる(身)の(責)とくくくくくくくくく
別ふく(身)の(責)とくくくくくくくくく

九

三責如濡如永貞吉

離卦の末(坎)險と
くくくくくくくくくくくくくくくく
守ふくくくくくくくくくくくくく
くくく守(吉)とくくくくくくく

六四責如婦如

白馬翰如匪寇婚媾

下卦とくく外と
くくくくくくくくくくくくくくく

と三の陽爻又應(初)の初(應)とくく
くくくくくくくくくくくくくく
互卦の三四と坎(馬)とくくく
の(馬)とくく(飛)とくくく
くくくくくくくくくくくくく

六五責于丘園束帛

束(帛)とくく(進)物とくく
くくくくくくくくくくくくく

吉

くくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく

上六白責无

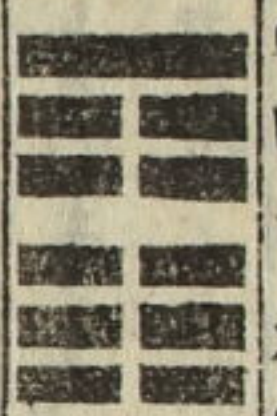
くくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく

咎

周易卷之二

五

坤下 艮上



艮上 坤下

卦の象は陰爻さうふふの陽うて上爻の陽画なるびんと剥落とす

この象は地の上に山ありて人の身して時、身の内の陽氣うてつらて虚令なりと坤木うてさふいとす

剝不利有攸往

卦象は陰爻さうふふの陽爻さうふふの小人さうふふの君子さうふふの事往

初六剝牀

以足蔑負凶

下卦は坤なり坤は陰なりて安處て座と剝さうふふの坤の徳はさうふふの足と震

六二剝牀以

今うてさうふふの真實と蔑亡

辨蔑負凶

初六六二と次第ふ林と剝さうふふの

六三剝之

六三この爻変ぢれ良なり上九の剝賢と應を良

无咎

六三この爻変ぢれ良なり上九の剝賢と應を良

六四剝牀以膚凶

この爻は下卦に過て

六五貫魚以宮人寵无不利

五と君位

上九碩果不食君子得輿小人

剝不利有攸往

六二剝牀以

辨蔑負凶

六四剝牀以

六五貫魚以

上九碩果不食

不君子ハ興
得レ小人ハ盧
と剣ト

震下坤上

復ハ其ル出入疾
无レ明来外无
反復其道七日
来復ト往攸有
利ス

剝ス盧

碩ハ果トとレ梨子のたぐひ之上九ハ高き処ニた
と外ハ外ニ行クてレにヤとレ人ハ人ニ行クてレくル

初六より六五まで剥セらレくルとレ上九ハ外ニ小
らレてレまレねクもレんト下ノ五陰ノ小人ニもレ君子ノ徳トとレ
ふレんト思フ上九ト君子ノ徳ハあレばレ人ハ人ニ行クてレくル興ト得
るト興ハ人トとレくルのニ下ノ群ニ柔ハ上九トとレくル
そのノ上九ハ小人ノ徳ハあレばレ人ハ人ニ行クてレくル居キ
戸ハなるベとレ林ノ足トよりレ層ハふるレ川ハ層ハふるレのハ戸ハは
那トとレくル

震下坤上

復ハ其ル出入疾
无レ明来外无
反復其道七日
来復ト往攸有
利ス

復亨出入无疾明来无咎反復其道

七日來復利有攸往

初九不遠復无祗悔元

初九遠ク不レ
復ル祗ハ悔ハ
元ハ吉ナリ

初九ハ上九ノ剝セらレくルのニ恐レらレくル坤ノ初六ハ堅氷の戒心
ありテ遠トとレくル復スこのニ由リえテ悔ハ祗トとレくル
とレ又ハ祗トとレくルてレ遠クとレくル

六二休復吉

六二休復吉

六三頻復厲无咎

六三頻復厲无咎

六四中行独復

坎のろやつりつとん定ちるる也禮と復んと又ふまさ
らんん類るるが由不屬危とて去るるも離の明知ら
るるといふ咎
○六四中行独復 五陰の中より
行く初爻の賢
者子應をまじ座位元より正と上下の四陰の矛盾交れ
るるに独りて礼と復て礼と復て礼と復て礼と復て

六五復不敦

○六五敦復无悔 坤正中して坤順の徳と以て
君位居るの實不礼不復
悔無

上六復不迷凶災

○上六迷復凶有災眚 上六陰柔ありて上よりりとの位
時ありて陰弱ありて良止とて去るるも凶災とて災眚
おのれより起るる之と師と用るふとて去るるも凶災とて

十年不克征

十年不克征 上六陰柔ありて上よりりとの位
時ありて陰弱ありて良止とて去るるも凶災とて災眚
おのれより起るる之と師と用るふとて去るるも凶災とて

用行師終有大敗以其國君凶至干

用行師終有大敗以其國君凶至干 上六陰柔ありて上よりりとの位
時ありて陰弱ありて良止とて去るるも凶災とて災眚
おのれより起るる之と師と用るふとて去るるも凶災とて

震下 乾上



震下 震いふく人の身行拳動乾天の
乾上 乾の自然ありて私己と用るる

无妄元亨利貞其匪正有眚不利有
攸往 无妄の卦と名づく无妄
る時元ふさうて亨と亨るの貞き不利ありと止
貞正とて一々時青災たりて往るに不利とて一々

初九无妄往吉

初九无妄往吉 初九下小正
けいふんふさうて亨と亨るの貞き不利ありと止
貞正とて一々時青災たりて往るに不利とて一々

六二耕獲不菑

六二耕獲不菑 初九下小正
けいふんふさうて亨と亨るの貞き不利ありと止
貞正とて一々時青災たりて往るに不利とて一々

往攸有不利

六三无妄之災
或之牛之繫
行人之得邑人
の災あり

九四負有可咎无

九五无妄之疾勿

有喜

上九无妄行
有青有利

乾下艮上

大畜貞不利
家食不吉
大川と渉る不利

苗としてこれより三とせらるるを畜として六二動ふ中正なる

この心の耕しつとるむとて秋のそのゆりて獲る
がため之畜とるは畜ふるむとまのその初ふ縁が呼ら
るるは手ふるむとと求るふと今不とらむと
はくろくとして自然なる時とらむと無妄
○六三
往とびて吉利なりと乃義なり

无妄之災或繫之牛行人之得邑人

之災 此の爻の變は同人の三爻なり今陰爻の時とて

のとき无妄なるとき時ふして妄の心は凶災と
くること必せり同人三爻の心ももるべしと繫る牛ありん
時とら行人のいして去くとあふべしてつとらうくと居る
邑人との牛の主とめらうとらして捕らるの災凶ありと

九四可負无咎 初九内動のくも九四の

九五无妄之疾勿藥 外小進の初よりと

有喜 中正无妄の君は災を免らるべきふあり

上九无妄行有青无攸利 上

乾下 乾は進で外より艮は止まるる外より

艮上 乾は進で外より艮は止まるる外より

大畜利負不家食吉利涉大川 大畜も

道正貞と利と賢者となつて引らげて
用ふるは爵祿と重しとめら賢者時と得は
めら己が家とて食らるる吉利と大畜賢者
とらめらるる時大川と渉るる利なりと大川と渉

頤負吉。觀頤。自求口實。實と觀て自ら口實と求む

初九再の靈龜。舍て我を觀て。頤を以て孕ふ凶也

六二頤之顛。頤を顛る

經不拂。經を拂ふ

六三頤之貞凶。十年用也

勿利。利を勿く

六四頤之顛。虎視眈眈。其欲逐々。咎无

堅く實し中間に陰ありて内象に空虚あり口頤の象と
以卦の名と又口中の實とを食物のたとへたりして
生やアウシ形とアウシ徳とアウシ人をやアウシ又天
地の萬物とやアウシの義はかこの卦の意なり又口は
言と身の行状と實ふして虚言をいふこと常小義理信
實と求むることを口實といふ義なり

頤負吉。觀頤。自求口實。

の祿凶なりと又奉用可や否とつて頤養所の人
体と觀てと口言の實行する賢人と求むる也

と又中よりいふその君をきんと
觀てこと事て口實と求受んとす

初九。舍甫。靈龜。觀我。采頤凶。

のくく守節と舍て我と中より君と觀て口頤と孕ふ
めして食祿とむるなりとむる時凶なりとむる也

六二。頤之顛。經于丘。頤征凶。

比して頤養上よりさへ初よりと由顛倒とむるなり
又中より道の下の上より求むる常經今下の初より求むる

由顛倒とむる丘と良の象にして上九とつて
陰利とむる也應ふる征凶なり五應の位なり

あて下と損して上より益時上より人なりと下の心と

六三。拂頤。貞凶。十年。

のくくとむる也征戰
勿用无攸利。又貴の象なり

かして又貴がまはれ也拂ふことこの心の
して貞止時凶なり十年と數の終つて追り用ゆ所は

六四。顛頤。吉。虎視眈眈。其欲逐々。无咎。

又利吉なり
安堵せ下の賢者由むるなりと顛頤なりと吉
く又身の威と下より虎の眈々しき視のどし

九三棟の撓む凶

よりそふぐゆ(小剛柔)たけりて根と生とちげりて
るものたたと老る夫の女妻といふ得て子と幼い
と一又初六と民と助と下の民の力と ○九三棟
得る利ありさるあことなり

九四棟隆吉

九三中と過て下の上より剛と過ると上六柔應
あはれども棟へ上よりたてくるものふり又應を
はのこしてばばらう心満假て他と ○九四棟隆吉
のこしてばばらう心満假て他と

九五枯楊華を

大過の時小當て尊位うれども下小應与うけはと
枯る楊小花と生たたるがごとく遂小益かー又と
の初六陰柔よそとる時これ棟下ふさむい ○九五
の初六陰柔よそとる時これ棟下ふさむい

夫得其士

老る婦人の壯士夫と得るがごとく一とての幼育の功かーと
りとして罪咎有つてゆるめれども又養うたこととら
るる

上六過て渉る項

○上六過て渉る項 險交を
の地小居小人の身よ今限小過るとたと水と渉る
ふうれ処ふゆり入る頂逆も水小減りがごとく身分過
るることばゆり時いさむい苦むらうことうのじまじ
るるが自のうり所て他と答るとにあべととなり

坎下坎上

坎下 坎上 坎上 坎上
坎下 坎上 坎上 坎上
坎下 坎上 坎上 坎上

羽自坎亨有維心

習坎有孚維心亨行有尚 人重
歴る身維るの亨ざることう 誠一と守て行て
止ざるべ功德と尚かかしのどれ行責を貴尚へ

有

有 有 有 有

初六習坎坎窞
干入凶

九二坎不險有求
小得

六三來之坎々々
險且枕す坎
窞于入用勿
勿れ

六四樽酒簋
用缶納約自牖

終无咎
終无咎
終无咎

九五坎盈不既
祗答

上六係不微纏
于真
三歲得不凶

初六習坎入于坎窞凶
この爻變じ
水澤節
の象なり初六陰柔の性質なる由(借)弱みして不正の地
落入て坎窞不しとまるゆ(と)先説く險難ふ入るる
由(凶)なり

九二坎有險求小得
この爻變じ
坤順と
るれ此と与するの意なり今二の陰柔中ふ入る由(坎)中
險と云ふ志くれども剛義と守りて中正と道としらるる
由(小)得

六三來之坎々々
險且枕す坎
窞于入用勿
勿れ

六四樽酒簋
用缶納約自牖

六四樽酒簋
用缶納約自牖

終无咎
上客の宴饗の具より樽酒の酒あり樽の側
食たり金の器よりひの酒あり樽の側

九五坎盈不既
祗答
以上心中しれしなり
○九五坎不盈祗既

平无咎
重く險難の中に入りしれしなり
○上

上六係不微纏
于真
三歲得不凶

離下離上

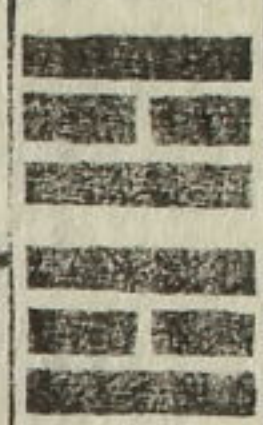
離ハ自ハ利あり
亨牝牛ヲ畜ナ
ル吉あり

初九履之錯然
咎无

六二黄離元吉

九三日昃之離之
歌不則而大
嗟之嗟あらん

なうと大氏の罪三歳してゆるさうく例まらるに罪禍お
き由三歳の久きも舎れ出さうくゆるさうくつめ出
こと得ずして凶なること
ある離れなり



離下 離上 離ハ自ハ利あり

附所

離利貞亨畜牝牛吉

萬物形これば

己人の交情ハ亨通する時ハ亨通するべし
離ハ自ハ利あり
亨牝牛ヲ畜ナ
ル吉あり
初九履之錯然
咎无

履錯然敬之无咎

性元より上炎

六二黄離元吉
九三日昃之離不鼓缶而歌

則大嗟之嗟凶

常不用

上下の卦形同体
坤と名づけるの外先下

